百人女郎品定

繪草紙

西川筆 下之巻

百ノ人女郎下之巻　目録

○仕廻物　○妾芸人　○風呂女
○絹物女　○茶屋女　○茶屋娘
○茶屋花車　○同二瀬　○芝居札茶屋
○水茶屋　○豆腐茶屋　○芸人女
○芸人宿嚊　○歌比丘尼　○旅籠屋出女
○河原宮　○大湯女　○小湯女
○大原神子　○産婆　○おちやない
○梓神子　○綿繰　○索麺粉挽
○夜水茶屋　○無嫁
以上

○三ヶ津色里始

世の傾国けいせいハせわたくし。ゆくていハ口乃せうか
とひなそしも。漢土にて理義ハあまねく知る所。
天竺震旦我朝にてもかはる也。謝吏吾国ハ
天神地祇より。神風の道をみちびく玉の
風情。たゞ和く月日の風俗とかや。されバ

京江戸大坂三ケの津を。此道の上取て定
所も数ある中にしかも一京嶋原ハ。天
正の始めに。原三郎左衛門林又市郎とて
浪人して許令を被り。則柳の馬場二条の北
にし傾城町を開し。後ニ六条西洞院に移り
移されたりけるが後寛永年中に。今の
朱雀野に所を易られしが。昔のちなみに

りん。今ハ西新屋敷柳町といへる
なり。かのときの原氏ハ今の嶋原上の町
西南角。桔梗屋八左衛門が株也。又林氏ハ
今の下の町西南角。萬屋八郎左衛門屋敷
その株也。林氏ハ寛文年中に大坂に引越。
今の大坂新町扇屋是也。江戸ハ元
の庄甚田氏。彼土地をねがひて移し御免

伊勢兵衛とて何某ありしが。ゆきて山下氏
なじ此道の祖也。難波津新町は昔より
繁華にて大湊あつて諸方より色町多かりしが
寛永の末正保のはじめ比より。ひとつ所に
あつめて此新町と名付て則上本村や
又二郎町　瓢箪町　佐渡島の越後町　これなり
京橋町　金太夫町　吉原町これなり。其

外六十六国より色里数多ありし中
じし。其中けいせい町と定まる所の名は
ぞ。なかにも泉州堺の乳守すなはち
高洲。和州の奈良木辻鳴川。伏
見の撞木町泥町。大津の柴屋町。
越前の国。敦賀の六軒町。西国筋
には播州の室。同国鞆の

姫路や又長堀の町。備後の表。門くるまぐ
めぐく。備中れ宮島。安藝の宮島の新
町。下の関は中の町。長崎の丸山町。
此外国々所々に遊女は多しといへども。
皆色里なくてたしなみ。さぞくの嶋
位あるとうれしも。土地のならひか風俗
ひろくあ絶ば。きびしく宮より野郎

京嶋原
太夫
新ぞう
ひきふね
引舟
やりて
つぼね
局女郎
見てゐる
かぶろ

大天神(てんじん)
鹿恋(かこい)
ふろ
小天神(てんぢん)
わけや、
くゑーや

女房
うちは
ゑし
うぶろ

江戸よし原
さん谷
かぶろ
あげや女房
手上物
たま
新ぞう
あいと女郎
みうく

うめがや
さんちや
女郎

大坂新町
七夕の立花
天神
たま

新ノ位
月ノ位
扇女郎
情ノ位

ちと入
かし
てうけ
まい人
月
かとへ相

風呂女
くゑしや
宿ろく

茶屋女

お茶や
茶屋
いづミや
志んめいあぶれ茶屋

そこどや
出女
おびくみ

小湯女
大ゆな
さん所
お里ノ

附家の室
大原神子
おちや

ちあげ
元上
だぐ

あづさ
神子
いくらござるぞ

そうめんの粉引

夜の水茶屋
惣嫁

寛政八年辰二月吉日